

表面筋電図と針筋電図の解析に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 3 月 16 日 ～ 平成 33 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 表面筋電図と針筋電図の解析に関する研究

〔研究目的〕 針筋電図検査は神経筋疾患の診断に広く用いられている検査ですが、痛みが強いことが欠点です。我々は、表面筋電図によって針筋電図検査の大きな目的である、神経原性か筋原性かの鑑別（障害が筋にあるのか、それを支配する神経にあるのか）を診断する新しい定量解析法を開発し、有用であることを示してきました。本研究では、広く行われている針筋電図について客観的な解析手法を確立した上で、表面筋電図とその感度を比較することを目的とします。

〔研究意義〕 痛みがなく侵襲のない表面筋電図によって、針筋電図の役割を一部でも代替できるならその意義は大きく、CSA を ALS や NA と正しく鑑別でき、適切な治療・予後予測を行えるとすれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2005 年以降に当科で針筋電図検査を施行時に、同時に表面筋電図も施行した患者の保存してある筋電図データを読み出して解析し、解析方法の検討開発と、針筋電図と表面筋電図の感度の比較を行いました。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に連結不可能匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TRAC」）事務局に提出します。TRAC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TRAC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

〔その他〕 特記事項はありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・講師 畑中裕己

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科 (03-3964-1211) [内線 7068]